

# 本当の非武装中立論

—朝日新聞記者に答えて（続）—

昭和五十九（一九八四）年九月二十一日 静岡県熱海道場書斎

## 南無妙法蓮華經

質問四、日本の非武装中立論について、どう考えるか。

日本の非武装中立論について答えましょう。

日本の非武装中立論は、すべてその条件が満たされていない。

非武装中立ということは、敵を仮定せず、また味方という者も作らない、本当の正しい平和を求める者のみが言えることで、いやしくも武装すると言うことは、敵を仮定していることであり、軍備を肯定しながら、非武装などと言うことは、意味がない。

敵を仮想しない限り、軍備はあり得ないはずだ。

現在、日本国の中において、非武装を唱える党派もあるけれども、すでに日本国を守るための軍備——自衛隊の存在を認めたり、あるいは一方で仮想敵を考えたり、あるいは敵対国の方に協力したりする姿で、非武装中立論が成り立つはずがない。

ここに日本の非武装中立論は皆、条件が満たされていない。

本当の非武装中立の世界が現われるためには、まず自ら軍備を捨てねばならぬ。

敵というものを考えるから、軍備が要る。

敵というものを考えないのが、第一の条件。  
その次に中立だ。

敵対視している国々の、一方に協力することが、間違いの始まり。

自ら戦争には入らないと言いながら、人類全滅の大戦争を企てた方に偏つてている。

こんな姿で、日本の軍事力を利用するのみならず、今度は自衛隊も戦争に利用される。これらの非武装中立論などは、どこでも成り立たない。

中立ではない。

本当の非武装中立の条件は、まったく敵国を仮想しない上で、たとえ敵国が来ても、自

どうせ（軍事）抵抗すれば戦争だ、（軍事）抵抗しないならば殺されるだろう。  
非武装だから殺されるのではない。

殺されるのは、どちらの側についても殺される。

人類全滅の見通しが立てば、どちらにも付かない、本当の非武装中立が成り立つはずだ。  
ブロックウェー卿きょうがイングランドに行つて、ガンジー首相などと会見した後、このことについて新聞記者の質問に答えている。

かつてブロックウェー卿は、ガンジー翁おうと親しく話をした。

ロンドン会議に来た時に会ったんだろう。

その時に英國の方は、「あなたの非武装論は『敵を愛せよ』という聖書の実演ですか」と言った。

そうしたらガンジー翁は、「いえ、私の平和運動は非暴力運動というが、敵というものを愛するにしても、憎むにしても、敵というものを見出しません」と言った。

聖書の言葉ではない。

現代の平和運動の本質を説いた。

今の平和運動が非武装中立を守るならば、まず敵というものを認めてはいけない。

「日本国のまわりのどこにも、敵はありません」と言う時に、初めて平和運動というものの、中立運動というものが成り立つ。

今の日本のどの党派が政権を執つても、皆自らを守るための最小限の軍隊と兵器を持つ。もし、どこからか、誰か攻めて来る時に、この軍隊が働くという。

そういう意味において、本当の非武装中立論は、日本国には成り立たない。

成り立たないから、この中で、もつとも正直にアメリカと合同して安保条約を結んで、日本国こそ核兵器を使わないが、アメリカが使うことによって日本国が守られるという。國民も、そう聞けば、それがソビエトに対する安全策かと思うようになつた。  
ここに危険がある。

結局は、今の自民党政権の小さい片割かたわれが、各政党の中で、一種、色の変わった形で非武装論を唱えるけれど、皆、自民黨の一層小さな派閥にしか過ぎない。

近代の世界に、非同盟諸国というのがある。

最初はインドの独立のさいに作り上げられたものだけれども、今インドは、核兵器まで持つようになつた。

しかし、なお今もインドは、非同盟諸国の平和運動を指導しておる。

元來、<sup>がんらい</sup> 非同盟諸国は、どちらの国にも同盟しない。

自分の進む道を、武力でなくて、ただ平和を守って進む、というだけのことで、その国は非常に多くなつた。

多くは軍事力を持たず、互いに信頼し、助け合つて行つてゐるようだ。

こういう生き方があるが、軍事力の一方に同盟すれば、一方に敵ができる。

これは必然だ。

今、日本などでも、多くの非同盟諸国のように、非同盟という立場をとればよいけれど、まつたくアメリカが先頭になつて、ソ連の軍事力に対抗する姿勢だけをとつておる。

この時、日本国に非武装も、中立も成り立つものではない。

日蓮大聖人は、日本国の大震災に驚いて、初めて立正安國論という幕

\*府諫曉の予言書を認められたが、日本国も、大正十二年九月一日に、関東一円に大地震

があつた。

私も、これに驚いて、ただちに海外伝道の旅から引き返し、立正安國論の鏡に照らして、日本国の大震災に至ることを恐れ、日本国に着くや、一人自ら毎日、東京の地震で崩れたところを御祈念して巡つた。

その時に松平俊子としこという法華經の信者があつて、御令嬢二人を連れて、この御祈念に加わつた。

二、三人で東京の町を太鼓を擊つて歩くのに、注目する者は、誰もなかつた。

そこで白木屋\*しろきやの前で、わりと人が集まつておる大道の真ん中に立つて、「日本国の大震災を教えるものが、この震災である」ということをお話した。

松平俊子先生も、同じ趣意のお話をなさつた。

はたして日本国は、今日に至るまでに、歴史始まって以来の亡國を体験した。今、日本国に群発地震が起つておる。

今にして数えれば、その規模は、日本本土の中部がほとんど全部包まれておる。

言できない。

日本国全土を搖がす大地震が起ころる恐れがある。

それは日本国の将来に何を教えるかというと、天が日本国の大滅を教えたものだ。  
その指導者が今のアメリカ。

「浮沈空母」などと云ふことを公言する指導者によつて導かれる日本国の大姿、日本全国は、本当に核兵器によつて滅亡する恐れがある。

これがいたずらに、ただ私の杞憂きゆうであれば良いけれど、事実になつた時では、もう後悔は先に立たない。

国民も考えねばなるまい。

質問五、宗教界は、今後どういう課題を持つべきか。

答えて曰く、科学文明を廃絶する力を持つものは、今の世において宗教界。

\*なかんずく耶蘇教やそきょうと仏教との二つが、力を合わせた時、核兵器廃絶が実現する。

それが今、運動として現われて来つつあるのが、アメリカだ。

これは非常に精巧な考へで、アメリカの核兵器やミサイル、こういう人殺しの兵器を全部、無用化してしまう。

今のところ仏教界は立ち遅れており、耶蘇教國の國民であり、信者であつたために、耶蘇教の教えを奉じて、どんどんと機械文明の誤りを正して行つてゐる。

今、現実に平和運動の中心になつて行く者は、耶蘇教の神父、牧師たちであり、これに従う信者たちは、核兵器廃絶を実現しつつある。

仏教徒は少し立ち遅れけれども、運動の根本の働きは、やはり仏教に基づいて行われている。

仏教と耶蘇教と一体になつて、核兵器の廃絶を実現することが、精神文明の世界を作る。人殺しの替りに、人を生かす教えを弘めていく運動が今、まさに実現しつつある。

以前に、アーノルド・トインビーという歴史家が書いた、「二十世紀の特筆すべき大事件は、月の世界に人が行つたことでもなく、核兵器を開発して、戦争したということでもない。

耶蘇教と仏教との合戻することであつた」といふ言ひ方ある。

耶蘇教徒は、何のことなしに仏教の本尊——御仏舍利塔を建立し、仏教徒は何のことなく、耶蘇教國に宝塔を建立して、仏教を弘めつつある。

事実が、こうなつた。

従来の耶蘇教でなく、従来の仏教でなく、日蓮大聖人の、末法のために説き明かされた三大秘法の法門だ。

日蓮大聖人の三大秘法とは、まず本門の本尊——御仏舍利塔が娑婆世界の空中にそびえる。

それに南無妙法蓮華經の題目が、宗教的祈りの法門だ。

暴力でもなければ、説明でもない。

ただ祈りの言葉を一人でも唱える。

おおぜい  
大勢でも唱える。

監獄でも唱え、人間の中でも唱え、戦争の中でも唱え、どこでも唱える。

南無妙法蓮華經が題目、さらに、これによって現われるものが本門の戒壇。  
本門の戒壇は、建造物ではない。

我々の住むこの娑婆世界に、魚が住めば水の中、鳥が翔れば空中、獸が住めば林の中、  
そうして人間が住めば街の中、このままにして、そこをお淨土の姿と眺めて行く、考へ  
て行く、これが本門の戒壇というもの。

世界中が皆、本門の戒壇。

仏様の住ませ給う精神的お淨土の姿が現われる、これを本門の戒壇という。

天国に行くのでもなく、遠方のお淨土へ行くのでもない。

ここを離れない。

この娑婆世界を、そのまま仏様の住ませ給うお淨土と考え直すことだ。

この力が平和を作る力になる。

今日、我々が持ちやすいように、本門の本尊、本門の戒壇が、南無妙法蓮華經の五字七  
字の御題目の中に包まれてしまつてある。

これが本門の題目だ。

三大秘法は、南無妙法蓮華經の一大秘法だ。

〔天鼓〕昭和五十九（一九八四）年十一月号二〇～二五頁より

15頁 \* 謹晚 || 強くいさめ、さとすこと。 \* 白木屋 || 東京・日本橋の百貨店。

16頁 \* なかんずく || いろいろあるなかでも、特に。とりわけ。 \* 耶蘇教 || キリスト教のこと。

17頁 \* 精巧 || 手なれてうまいさま。 \* 奉じて || おしいただき従うこと。

- 20 -

#48-6

日本山妙法寺 藤井日達山主法語

## 法華經信心修行の仏土

—奈良吉野山仏舍利塔三十周年記念法要に寄せて—

昭和四十八（一九七三）年一月十二日 ネパール国首都カトマンズ

## 南無妙法蓮華經

大和心を表現する大和の国、吉野山に宝塔建立の宝土を、今年の始めのお正月に黄金を  
敷き詰めて御購求なされ、日本山の道場に御寄贈、登録被下し由の吉祥報を、春風に托  
して西天に御送り遊ばされました。  
歓喜に堪えませぬ。

吉野山は花の名勝なるのみならず、日本歴史の名所であります。

- 21 -